

東京市政調査会主催

関東大震災資料展 展示目録

- 市政専門図書館所蔵資料で見る震災と復興 -



【協力】

東京消防庁

東京都復興記念館

2005年1月24日(月)～28日(金) 7:30 - 20:00

会場：市政会館 1階ホール

「尋ね人係」提灯（複製）（東京市政調査会作成 1923(大正12年) 東京都復興記念館所蔵）

震災当時、被災した人々は散り散りになり、家族親戚や友人知人の行方を捜す人が多かった。東京市政調査会は、避難場所の情報提供を日比谷公園内で行った。「尋ね人係」提灯はその際に目印として掲げて使用したもの。

【フレーム内展示資料】

1. 火災系統地図（東京帝国大学罹災者情報局編 1923（大正12）年）
2. 東京付近ニ於ケル鉄筋コンクリート造建築物被害分布図（警視庁保安部建築課編）
3. 震災当時の新聞
4. 新聞 たずね人版（現物）九月十五日、十六日（東京日日新聞 1923（大正12）年）
5. 新聞 たずね人版（拡大）（東京日日新聞 1923（大正12）年）
6. 東京復興計画一般図
7. 東京都市計画道路網図（復興局編 1928（昭和3）年）
8. 帝都復興展覧会看板（東京市政調査会作成）
9. 帝都復興展覧会ポスター（東京市政調査会作成）

【ガラスケース内展示資料】

1. 本郷における地震計の記録（「震災予防調査会報告 第百号甲」震災予防調査会編 1925（大正14）年）
あまりの激震のため中央気象台の地震計の針はすべて飛んでしまった。東京帝国大学の2倍地震計が揺れを記録した。
2. 地震による被害状況（1）（「震災調査報告」[内務省]社会局編 1924（大正13）年）
震災による東京府の死者は約6万人、被災者は約200万人。また、火災により東京市の約43%が焼失した。
3. 地震による被害状況（2）（「東京震災録 前編」東京市編 1926（大正15）年）
発電所 済水場やガス管が損害を受け、上下水道 電気、ガスも止った。鉄道や橋梁 通信機関も被害を受け都市基盤は壊滅状態となった。
4. 浅草区や本所区の火災（「大正大震災記」時事新報社編 1923（大正12）年）
火災により誘発された旋風が東京市内で約100ヶ所近く発生した。被服廠跡では猛火と大旋風により死者は約4万人にのぼった。
5. 焼失倒壊建物（「関東震災画報 第二輯」大阪毎日新聞社編 1923（大正12）年）
火災により官庁 学校 会社 デパートなど東京の主要な建物が失われた。
6. 丸の内 京橋の被害（「関東大震災号」国際情報社編 1923（大正12）年）
7. 文化人の震災記（「大正大震火災誌」山本 美編 1924（大正13）年）
芥川龍之介や室生犀星や島崎藤村は震災の体験を文章にし、北原白秋や与謝野晶子はその様子を歌に詠んだ。

- 8 . 臨時震災救護事務局の設置**（「大正震災誌 写真帖」内務省編 1926（大正15）年）
政府は「臨時震災救護事務局」を設置し、被災者に食料・飲料水の配給を官報で公布した。
- 9 . 世界各国からの救援**（「帝都復興事業大観 上」日本統計普及会編 1930（昭和5）年）
世界各国から救助の手が差し延べられた。特にアメリカは「1分早ければ1人多く助かる」を標語とし、多くの義捐金を日本へ送った。
- 10 . おもな避難所**（「大正大震火災誌」警視庁編 1925（大正14）年）
被災者の多くは、公園や神社・寺院などに避難した。
- 11 . 児童保護活動**（「震災後に於ける児童保護事業概況 其二」東京市編 1924（大正13）年）
東京市は9月9日から乳児・児童に対し牛乳の配給を行なった。また、迷子保護・健康相談も行なった。
- 12 . 尋ね人**（「東京大正震災誌」東京市編 1925（大正14）年）
震災当時、被災した人たちは散り散りになり、家族・親戚や友人・知人を捜す人が多かった。東京市政調査会は被災者の避難場所情報の提供を行なった。
- 13 . 避難場所カード**（東京市政調査会作成 東京都復興記念館所蔵 1923（大正12）年）
被災者から氏名と避難場所を尋ね、1枚1枚のカードとした。東京市政調査会救護事務局での閲覧の他、一覧にして各所に張り出した。
- 14 . 行方不明者名簿**（「大正十二年関東大震災 行方不明者名簿」東京市政調査会編 1923（大正12）年）
- 15 . 帝都復興ノ議**（「帝都復興ノ議」後藤内務大臣提案 東京市政調査会編 1923（大正12）年）
9月2日に内務大臣に就任した後藤新平は、東京の復興の構想を考え9月6日に閣議に提出した。
- 16 . 詔書**（「帝都復興区画整理誌」東京市編 1932（昭和7）年）
遷都論などを主張するものも現れたため、9月12日詔書がだされた。遷都はしないこと、復旧ではなく復興であることが示された。
- 17 . 帝都復興院最初の理想計画（山田博愛氏談）**（「帝都復興秘録」東京市政調査会編 1930（昭和5）年）
後藤が総裁となった帝都復興院には、有能なスタッフが集められた。最初の復興計画案は約40億円だった。
- 18 . 帝都復興審議会の復興計画大修正**（「帝都復興史 第1巻」復興調査協会編 1930（昭和5）年）
帝都復興審議会に提出された政府案（約7億円）では、日本の財政が破綻すると反対され、計画は大幅に縮小された。
- 19 . 土地区画整理の啓蒙活動**（「帝都土地区画整理に就いて [第1輯]」東京市政調査会編 1924（大正13）年）
復興計画を実行するためには、区画整理が必要であった。市民の理解を得るために、講演会やパンフレットの配布を行なった。
- 20 . 横綱町の土地区画整理前後の図**
(「東京特別都市計画土地区画整理地区現形並換地位置決定図 第1輯」復興局編 1924（大正13）年)
区画整理前の道路は狭く複雑な形をしている。整理後の道幅は広く直線的になっている。（黒塗り部分は新設道路）
- 21 . 土地区画整理の様子**（「帝都復興記念帖」復興局編 1930（昭和5）年）
- 22 . 後藤新平からピアード博士に送られた電報**（東京市政調査会所蔵 1923（大正12）年）
後藤新平は博士に助言を得るため9月5日「震災火のため東京の大部分は破壊された。徹底的改造を必要とする。」と電報を打った。
- 23 . ピアード博士から後藤新平に送られた電報**（東京市政調査会所蔵 1923（大正12）年）
後藤新平の電報と行き違いにピアード博士は「新街路を設定せよ、街路内の建築を禁止せよ、鉄道の駅を統一せよ」との電報が届いた。

24. ピード博士の東京復興に関する意見（日本語 英語）

（「ピード博士東京復興に関する意見」東京市政調査会編 1923（大正12）年）

後藤新平への書簡の形式となっている。街路計画から土地住宅問題、復興事業執行機関、財政問題や都市の美観にまで言及している。

25. 帝都復興連合協議会の活動（「帝都復興ニ関スル建議」帝都復興連合協議会編 1923（大正12）年）

東京市政調査会が中心となり、都市研究会・建築学会・土木学会等14の団体と「帝都復興連合協議会」を組織し建議等を行なった。

26. 帝都復興展覧会入場券 無料招待券（東京市政調査会所蔵 1929（昭和4）年）

東京市政調査会は1929（昭和4）年10月19日から23日間にわたって帝都復興展覧会を開催した。入場料は10銭（現在の金額にすると約350円）約11万人の入場者を集めた。

27. 帝都復興展覧会の出展資料（「帝都復興事業大観 下」日本統計普及会編 1930（昭和5）年）

帝都復興展覧会には約7万点の資料を展示した。また、出展のなかから約300点を選んで「帝都復興事業大観」にまとめ刊行した。

28. 復興映画「復興帝都シンフォニー」の台本（東京市政調査会所蔵 1929（昭和4）年）

東京市政調査会製作の映画の台本。東京や横浜の復興状況を一日の活動の中に織り込んでいる。映画は現在、市政会館1階エレベータ裏にて上映中。

【映画と曲】（9時～18時の間 繰り返し上映します）

「復興帝都シンフォニー」

東京市政調査会制作 大日本教育映画協会撮影 音声なし 約30分

東京国立近代美術館フィルムセンターのご協力により上映します。

震災被害から立ち直る東京や横浜の復興状況を、一日の活動の中に織り込んだ記録映画である。「帝都復興展覧会」(1930)開催中は会場である市政会館の地下講堂で上映されて好評を得たそうである。フィルムは終戦後占領軍に接收され、1960年代に日本へ返還された。現在は東京市政調査会では所蔵しておらず、東京国立近代美術館フィルムセンターで所蔵している。

「関東大震災」

東京消防庁 東京連合防火協会 音声あり 約20分

消防博物館のご協力により上映しております。

関東大震災における東京内各地の被災の様子や、救援活動 復興に向けた取り組みを紹介する記録映画。

「復興行進曲」

東京市政調査会依嘱 北原白秋作詞 山田耕筰作曲 1931年コロビアルコード

「昭和館」のご協力により上演いたします。

震災当時市民の間にあった「復興意気」を再び奮い起こしてもらうため、本会が北原白秋氏に作詞を山田耕筰氏に作曲を依嘱、「帝都復興展覧会」(1930)を機に公開したもので、会期中は独唱と藤間静枝振付で踊りを上演した。

【直下型地震コーナー】

1. 新潟中越地震の被害状況の写真 19枚（東京消防庁提供）

2. 震度分布図 5枚（中央防災会議首都直下地震対策専門調査会提供）